

学校評価 公表シート2

1 本園の教育目標

建学の精神にのっとり「躰に重点を置き、心身ともに健全で情操豊かな子ども」をめざす。幼児一人ひとりが自信をもって、明るく楽しく落ち着いて生活し、生きる喜びをもてるような教育活動を行っている。

①明るく、楽しく、友だち同士仲良くできるように計画し、指導する。
 ②幼児の能力や性格などを伸ばすように、教育研究と指導実践の両面を進めていく。
 ③ふだんから健康衛生に対する関心を高め、実践を通して習慣化していく。
 ④集団の中での規律、友愛、礼儀作法が身につくようにする。

2 本園度、重点的に取り組む目標・計画

質の高い教育を提供し、園児たちの健全育成を達成するために、教育内容や活動の見直しを図る。また、今後も持続可能な幼稚園として存続するため、教育・保育の基礎基本に立ち返った実践と教職員が安心安全に働ける職場環境づくりを行う。

3 評価項目の達成及び取組内容

評価項目	取組内容
1 カリキュラム マネージメント の深化	(1) カリキュラムマネージメント（カリマネ）研修の充実 ① ZOOM 研修（学年リーダーの参加） ②職員研修での情報交換・共有 (2) カリマネを踏まえた保育家に描くと内容の見直し
2 求人と採用	(1) 養成校との関係づくり ①体験保育ポスター（アルバイト募集）の掲示依頼 ②教育実習懇談会への積極参加 (2) 実習生への働きかけ ①園長、副園長との面談 ②グループ LINE による情報提供 (3) SNS の活用
3 安心・安全な 園づくり	(1) 子どもたちにとって安心・安全 ①防災難訓練、交通安全教室、防犯教室 ②安全な遊び方指導 (2) 保護者にとって安心・安全 ①早く正確な情報提供 ②園の安全対策の周知 (3) 教職員にとって安心・安全 ①勤務環境、職場環境の向上 ②防犯訓練（西警察署員）の実施 ③護身術体験（園外研修）

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

1 カリキュラムマネージメント（カリマネ）の深化
 昨年度から岡山大学教授 横松友義先生の指導の下、実践を積み重ねてきたカリマネだが、本年度から ZOOM 研修のメンバーを主任と学年リーダー（学年1組担任）で受けることとした。その結果、昨年度までは園長・副園長・主任どまりだった指導内容も学年リーダーを通して全教員に情報共有することとなった。また、昨年度からの「エピソード記録」や「カンファレンスシート」から発展、レベルアップした「自由活動記録」を作成するようになった。また、従来使用している「週案」を見直して、さまざまな活動のねらいをより具体化して表記するようになった。これにより各担任が、毎日の活動のねらいを明確化するとともに、週末にはどこまでねらいが達成できたかを振り返ることができた。

来年度は、横松先生からの指導はなくなるものの、教職員だけで実践を積み重ねていき、毎月の職員研修で検討する予定である。

2 求人と採用

求人や採用については、今後さらに厳しさを増していくことが予想される。その一端として教育実習生の減少が挙げられる。昨年度養成校 12 校、学生 25 人、本年度は養成校 9 校、学生 26 人だったが、来年度は養成校 5 校、学生 14 人という状況である。保育系の学生数の減少がその理由だが、園としては教育実習が求人の方好の窓口だっただけに今後憂慮される。教職員の出身校や人脈などの活用が必要と考える。

教育実習最終日の園長・副園長による面談も実施し、感想や将来の志望先について話を聞くが保育園やこども園志望が多く、私立幼稚園の良さや魅力をどのようにアピールするかが今後の鍵となる。本年度も養成校との関係づくりは継続したものの、アルバイトや体験保育の問い合わせはあまりなかった。

3 安心・安全な園づくり

「幼稚園は安心・安全な場所」でなければならない。その方針に沿って子どもたちや保護者、そして教職員にとってより安心・安全な園づくりに取り組んだ。

防災避難訓練や西警察署員による交通安全教室や防犯教室は本年度も実施し、子どもたちへ安全に対する啓発活動を行った。また、年度始めには遊具などの安全な遊び方を指導した。時折、子どもの怪我やヒヤリハット事案が発生した際にも、教職員全体の情報共有と子どもたちへの指導とともに、怪我については保護者への速やかな情報発信に努めた。

教職員向けには、財団主催の「夏季保育者研修会」の護身術体験に参加したり、2 学期、西警察署員による防犯訓練の実技体験をしたりして防犯意識を高めることができた。

さらには、教職員にとっても安心・安全な職場であるために、勤務時間や職場環境の向上に努めた。従来から継続している毎週水曜日の「No 残業デー」、教職員の誕生日の終礼時での「教職員誕生会」、毎学期末の職員面談などで職場の良好な人間関係の構築に努め、「働きやすい職場」「やりがいのある仕事」「自分を高められる職場」づくりを目指し、一定の成果を挙げる事ができた。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
1 - ①体力アップの指導向上	西幼サーキット、体育教室、心身統一、運動会、なわとび大会などとの関連付け
1 - ②正しい言葉遣いの実践	絵本、サークル対話、道徳教本などの活用
1 - ③ 5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の実践	職場の業務効率化 備品や消耗品、探す時間の無駄を無くす取り組み

6 学校関係者の評価

- ・担任が若い先生が多かったが、ベテランの先生がサポートできる体制で安心できた。
- ・規律や礼儀作法、善悪の判断などを幼稚園で学んでいる。
- ・保育参観に参加して、さまざまな活動がある中で子どもたちが自分で考えて発表する場を設定していて良かった。正解・不正解にかかわらず担任から褒める言葉をかけられて子どもは嬉しそうだった。
- ・リレーを参観して、勝っても負けてもお互いに称え合う姿に感動した。
- ・幼稚園の方法を家庭でも活用している。（タイマーで準備や片付けをする方法）

7 財務状況

公認会計士（監査機関）により、適正に運営されていると認められている。